

## 1 単元名 飛び箱運動

## 2 運動の特性

## (1) 一般的特性

飛び箱運動は今できる技を安定した動作で跳んだり、大きくダイナミックな動作で跳んだりすることや、練習すればできそうな技に挑戦したりすることが楽しい運動である。

## (2) 子どもから見た特性 (男子18名 女子14名 計32名)

## A 運動の楽しさの体験状況

## ① 体育の学習は好きですか。

とても好き	好き	きらい	とてもきらい
16名	16名	0名	0名

## ② 飛び箱運動は好きですか。(理由は自由記述)

とても好き	好き	きらい	とてもきらい
9名	20名	3名	0名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・跳ぶことが好き、跳べる段があって楽しい 13</li> <li>・できなかった技ができると楽しくて嬉しい、達成感がある 10</li> <li>・体を動かすのが好き 2</li> <li>・自分でめあてをもてる 1</li> <li>・あまりできないが、自分の苦手なところをそれぞれで練習できる 1</li> <li>・最初の授業より結果がよいと嬉しい 1</li> <li>・跳ぶのは楽しいが、難しい技はできない 1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跳べないしけがをする 1</li> <li>・とても苦手 1</li> <li>・失敗すると恥ずかしい。よく足をくじく、つっこんで足をぶつける 1</li> </ul>		

## ③ これから飛び箱運動の学習をしていきます。楽しみですか。

楽しみにしている	あまり楽しみにしていない
26名	6名

## B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

## ④ 自分の力に合った具体的なめあてをもてますか。

自分でめあてをもてる	アドバイスや資料があればもてる	もてない
30名	2名	0名

## ⑤ 取り組む技の気を付けるところ、練習の進め方はわかりますか。

自分でわかる	アドバイスや資料があればわかる	わからない
19名	12名	1名

## ⑥ 自分でめあてを達成できないときはどうしますか。(自由記述)

・友達や先生にコツを教わる	15	・なぜできないのかを考える	4
・めあてを簡単にする	1	・できている人を観察する	2
・考えて練習する	6	・めげない、あきらめない	2

⑦ 友達が困っているとき、アドバイスや協力、教え合いはできますか。

しっかりできる	できる	少しはできる	できない
13名	17名	2名	0名

⑧ 上手に跳ぶには何に気を付ければよいですか。(自由記述)

・手のつき方	18	・助走を勢いよくすること	4
・踏み切りを強くすること	6	・思い切り跳び、足を大きく開く	7
・空中姿勢(足や体を伸ばす)	2	・着地をしっかり	6
・怖がらない	2	・腰を高く上げる	1
・頭のつく位置	1	・「ポン・ドン・パッ」	2

⑨ 今できる技を上手にしたいですか。新しい技をできるようにしたいですか。

・今できる技	14	・新しい技	18
--------	----	-------	----

⑩ できるようになりたい技や上手にしたい技は何ですか。(複数回答可)

・かかえこみ跳び	5	・台上前転	9
・開脚跳び	10	・高い段を跳びたい	7
・横で跳びたい	2	・首はね跳び	4
・頭はね跳び	5	・いろいろ	1

### C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況(別紙参照)

#### 【考察】

#### A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の子どもは体育学習を大変好み、どの単位においても積極的に運動に取り組んでいる。体育学習への意欲は非常に高く、全ての子どもが「とても好き」か「好き」と答えている。男女も比較的仲がよく、協力して運動に取り組むことのできる子どもが多い。本学級は5年からの持ち上がりの学級であり、アンケートからは、昨年度一年間の体育学習の積み重ねを感じることができた。跳び箱運動の学習についても、5年時に7時間の単元を組み、めあて学習に取り組んでいる学級である。

跳び箱運動については、ほとんどの子どもが「とても好き」や「好き」と答えている。その一方で、3名の子どもが「きらい」と答えている。その理由として、「少し危ない」「失敗すると恥ずかしい」等があがっている。跳び箱への怖さや取り組む際にできばえを友達に見られることによる恥ずかしさから苦手意識につながっていることがうかがえる。「好き」と答えていても、同じように怖さを感じたり、自信がもてなかったりすることから「跳び箱運動の授業を楽しみにしていない」としている子どもが6名中4名いる。また1名、大きな体格から、跳び箱を縦にして跳ぶことに抵抗を感じている子どももいる。

そのような実態から、跳び箱への恐怖心をなくし、どの子どもも楽しく自信をもって取り組める学習を計画していきたいと考えた。今できる技で跳ぶことややさしい場で慣れていくことを大切にしながら、昨年度の実践をさらに深めていけるようにしたい。跳び箱運動の楽しみ方を広げ、子どもがじっくりと取り組めるような道すじや場を計画していきたい。

#### B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

5年当初は、学び方の習得状況について課題が多いように感じたが、昨年度を通して学び方が身に付いてきた。昨年度の跳び箱運動の学習では、7時間の単位において各時間の学習計画を自分でたて、めあてを具体的にもったり、課題解決の方法を選択したりする活動に取り組んだ。

今回のアンケートでは、自分の力に合っためあてをもつことについて、多くの子どもが「もてる」と答えている。また、練習の進め方も「アドバイスや資料があればわかる」と答えている。めあてのもち方や学習の進め方について、ある程度見通しがもてるようになってきた。教え合いについても、自然なかかわりの中でできる子どもが多い。

技を習得するために必要な学び方については、「できない際にどうしたらよいか」という質問につ

いて、昨年度は「何度も練習を繰り返す」と答えている子どもが多かったのに対し、今回は「友達や先生にコツを聞く」や「考えて練習をする」という回答が増えた。

また、技能のポイントについては、ただ跳び越すことに目が向いているだけでなく、より技を安定させたり、大きくしたりすることに目が向いている子どもが増えてきている。着手から突き放しを大切なポイントとしている子どもは今年度も多い。こういった跳び箱運動の技能のポイントについて、理解が深まりつつあると感じる。

そこで、自ら課題を設定し、解決していけるような学習にすることで、より意欲的に取り組み、跳び箱運動の特性にふれることができるようにしていきたい。そのために単元当初で、やさしい場のつくり方や資料の活用方法、教え合う際のポイントを明確にして、昨年度の学び方を確認したい。

技に対する子どもの思いとしては、今できる技、もう少しでできそうな技、両方に意欲が向いている。また、高い段を跳ぶことに意欲をもっている子どもが多いという状況もある。指導者としては、6年間の跳び箱運動のまとめとして、大きくダイナミックに跳び越したり、いろいろな技に組み組んだりすることで、跳び箱運動の楽しみ方を広げ、深めていきたいと考えている。第2空間の空中姿勢を工夫し、体の向きを変えて着地をするなど、昨年度十分に味わえなかった楽しさを伝えることも行い、子どもの跳び箱運動に対する視野をさらに広げ、深めていきたい。

### C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

開脚跳びの技能の習得状況については、多くの子どもが6段の縦まで跳べている。着地をしっかりとするという意識については、まだまだ足りないと感じるところもあるが、身に付きつつある。昨年度の実践では、安定して跳び越すこと、特に着地についてこだわって指導を重ねてきた。しかし、第1空間や第2空間の空中姿勢を大きくして跳ぶことについては課題がある。

台上前転、かかえこみ跳びの技能の習得状況としては、3分の2の子どもは4段を跳び越すことができている。安定して跳び越すことができている子どもは全体の3分の1程度で、台上前転やかかえこみ跳びへの取り組みがまだまだ足りていない子どももいることがわかる。逆に、昨年度の実践の中でかかえこみ跳びや台上前転について技能をしっかり身に付け、首はね跳びにまで技を高めることができた子どもも数名いる。特に回転系の基本の技としての台上前転については、技をダイナミックにするために台上で膝をしっかり伸ばすことができるような声かけが必要である。

以上のような実態から、本単元では、子どもに第1空間や第2空間を大きくダイナミックにする楽しさを伝えることにより、めあて①での技の大きさにこだわりをもてるようにしたい。また、めあて②においては、習得する技の一つでも増やすことができるように、やさしい場を活用し、積極的に練習を進められるようにしていきたい。やさしい場と試しの場を行ったり来たりする活動を繰り返すことで、よりできる技を増やし、達成感を味わわせていきたい。開脚跳び、かかえこみ跳び、台上前転という基本となる3つの技をしっかり習得することで、その後の首はね跳びや頭はね跳びなどの発展技への取り組みにつながると考える。発展技である首はね跳びや頭はね跳びについても、実態を考えると10名程度は取り組む子どもが出てくるだろう。安全に配慮したやさしい場を用意して、安心して練習ができるようにしていきたい。

## 3 視点と学習の手だて研究の仮説

### (1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

### (2) 学習の手だて

<視点1> 子どもの実態を把握し、運動の特性と指導内容を明確にした上で、道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

#### ○道すじについて（子どもが計画するめあて①とめあて②の学習の時間配分）

子どもの実態は、跳び箱運動の学び方について理解が深まりつつあるという状況である。めあて①とめあて②の取り組み方についても、イメージがもてている。そこで、オーソドックスなスパイラル型のめあて学習に取り組むことのできる道すじとし、めあて①とめあて②の学習の時間配分を個に応じて柔軟に変えることができるようにしたい。それにより、子どもが学習意欲を持続させながら活動し、それぞれのめあてをよりよく達成できるだろうと考えた。時間配分については、つな

がる運動や振り返りなどを除いた主運動の時間を30分とし、その時間配分を子どもが計画できるようにしたい。しっかりとした学習を成立させていくために、めあて①、めあて②ともにそれぞれ最低10分は取り組むことを条件に、どちらの学習を長くするのか、同じにするのかといったことを子どもに任せていきたいと考えている。そうすると、30分のうち中盤の10分については、めあて①に取り組む子どもとめあて②に取り組む子どもが混在することになる。子どもの個々のめあてが何であるかを学級全体で共通理解できるような掲示資料（図1）を用意したり、紅白帽子の色をめあて①からめあて②に変わるタイミングで変えるようにしたりして、同じ時間配分の子ども同士で協力しやすくなるような手立てを講じたい。

めあて①＞10分		めあて②＞20分	
開脚跳び Aさん	かかえ込み跳び Bさん	開脚跳び	かかえ込み跳び
台上前転	首はね跳び	台上前転	首はね跳び Bさん
	頭はね跳び	Aさん	頭はね跳び
めあて①＞15分		めあて②＞15分	
開脚跳び	かかえ込み跳び	開脚跳び	かかえ込み跳び
Cさん			
台上前転	首はね跳び	台上前転	首はね跳び Dさん
Dさん	頭はね跳び	Cさん	頭はね跳び
めあて①＞20分		めあて②＞10分	
開脚跳び	かかえ込み跳び	開脚跳び	かかえ込み跳び
台上前転	首はね跳び Eさん	台上前転	首はね跳び
	頭はね跳び		頭はね跳び Eさん

【図1】

＜視点2＞ 一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

### ○学習計画表の活用

学習を計画する際には、学習計画表を活用し、単元を見通していけるようにしたい。これは、単元の終わりに自分がどんな技ができるようになっていくかを目標設定し、そのためにどのように活動していくかを明らかにしていくものである。昨年度の実践でも、学習計画表を作成したが、初めて取り組む際に単元全ての計画をすることに困難さを感じている子どもが数名いた。そこで今年度は、オリエンテーションにおいて学習後の目指す姿をイメージし、そのめあてを達成するために、単元の間中までの計画を立てることとしたい。その後、学習の計画を毎時振り返りながら、修正を重ねたり、最後の時間までの計画を立てたりできるようにする。この計画表を作成していくには、技をよりよくしたり、できるようにしたりするためにどれぐらい時間がかかるのかといった見通しやどんな場で練習すればよいかといったことについての知識が必要になる。それらも指導しながら、取り組むことにより、子どもができる喜びを実感することにつなげていきたい。また昨年度に加え時間配分も計画することになるので、丁寧な指導を心がけたい。

### ○子どもが互いに教え合うための見合う視点の明確化と単元を通したペア（相棒）の設定

友達同士でできばえを見合うときに、どこを見てもらいたいかを端的に伝えられるようにする。特にめあて①のできる技をよりよくする際に「踏み切り」「第1空間」「着手」「第2空間」「着地」といったポイントをどの子どもも理解できるようにすることで、自分の課題をはっきりとさせて運動に取り組めるようにする。試技する子どもが跳ぶ前に「踏み切り」と言ったら、待っている子どもがそれを見るという流れがスムーズにいくよう、友達とのかかわり合い方についてもしっかりと確認しておきたい。

昨年度の実践では、着地を安定させることにこだわった。前述したとおり、第1空間、第2空間の大きさやダイナミクスについては、課題が残っている。そこで本単元では、技の大きさについて見合う視点も映像資料や教師の師範を通して、しっかりと指導していきたい。

なお指導者としては、空中姿勢における「大きさ」や「ダイナミック」という言葉について以下のように捉えている。

#### ＜技を大きく＞

主に切り返し系（開脚跳び・かかえこみ跳び）の空中姿勢について指導する際に使う。「第1空間を大きくし、水平な姿勢にする。」「第2空間を大きくし、着地の距離を伸ばしたり、着地の向きを変えたりする。」など。

#### ＜技をダイナミックに＞

主に回転系（台上前転・首はね跳びなど）の空中姿勢について指導する際に使う。「ふみ切り後に膝をのばしてダイナミックに回転する」など。

また、めあて①は場所別に、めあて②は課題別にかかわり、教え合いができるようにしていくが、単元を通したペア（相棒）を設定することにより、互いの課題をより共有する仲間を作っていきたい。ペア（相棒）については、学習中ずっと一緒に行動するのではなく、適宜声をかけ合い、見合いや教え合いにつなげていく。自分の取り組み方を最も客観的に評価できる友達という立場で互いに活用できるようにしていく。

○伝え合う内容の充実（何を、どんな言葉で伝え合うのか）

子ども同士の教え合いについては、特にできばえを見合うときにその内容の充実を図りたい。「できていたよ」「OK だよ」という声かけだけではなく、技のポイントにふれるようにしたり、台上前転で膝が伸びたら「ピーン」しまうときには「キュ」というようなオノマトペを使ったりできるよう促していく。多様なオノマトペを積極的に用いることで技の理解が深まり、活発な教え合いが期待され、技の習得につながるようにしたい。

<声かけの例>

- ・踏み切りの音は「バン」だよ。
- ・着地はひざを曲げて「ピタッ！」動かない！
- ・空中で体が水平になるといいよ。（開脚跳び）
- ・膝をしっかりのぼそう。腰を上げて。（台上前転）
- ・着手がすべっているよ。
- ・「ドンやバン」「パンやトン」「ピタッやストッ」
- ・肩を前にするといいよ。（かかえこみ跳び）
- ・最後までためて！あおって！（首はね跳びや頭はね跳び）

4 学習のねらい

○跳び箱運動に進んで取り組み、友達と助け合って活動したり、場や器具の安全を保持することに気を配ったりしようとしている。 【関心・意欲・態度】

○技のポイントを理解し、自分の力に合った場や練習の仕方を選んで取り組むことができるようにする。 【思考・判断】

○自分の力に合った技を安定して大きく行うことができる。またやさしい場や条件のもとで、新しい技ができる。 【技能】

5 評価規準(概ね満足できる状況)

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。</li> <li>・器械、器具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。</li> <li>・運動する場を整備したり、器械、器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。</li> <li>・技のポイントを知るとともに、自分の力に合った技を選んで取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に合った安定した基本的な跳び越し技、及びその発展技ができる。</li> </ul>
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>②約束を守り、友達と仲よく練習をしようとしている。</li> <li>③友達と協力し、自分の役割をしっかりと果たそうとしている。</li> <li>④器具の安全に気を付けて準備や片付けをしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分や友達の課題を知り、それに合った練習をしたり、教え合いをしたりしている。</li> <li>②技のポイントを知り、自分の力に合っためあてをもって取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①技を安定させたり、大きくしたりできる。</li> <li>②やさしい場や条件のもとで新しい技ができる。</li> </ul>

6 学習の道すじ (本時 5 / 6 )

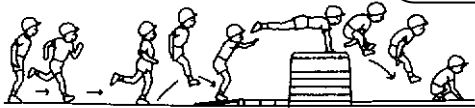
	1	2	3	4	5 (本時)	6
0 ↓ 4 5	オリエン テーション	つながる運動				
		めあて① 今できる技を安定させたり、大きくダイナミックにしたりして跳び箱運動を楽しもう。				
		めあて② もう少しでできそうな新しい技に挑戦して跳び箱運動を楽しもう。				まとめ
関	④ ②	③	②			①
思	②		②	①		
技					① ②	②

7 学習活動と教師の支援 (本時 5 / 6)

は じ め	オリエンテーションをする。 ○場づくり、器具の準備や活用方法、片付け方、安全な使用方法について理解する。 ○友達とのかかわり方 (跳ぶ人・見てアドバイスする人の位置など)を確認する。 ○学習のグループについて確認する。(めあて①は場所別、めあて②は課題別、に取り組む。) 単元を通したペアを作る。 ○つながる運動の行い方を知り、技との関連について理解する。 ○もち技を確認する。 ○技のポイントや練習方法について知り、学習計画表を作成する。 ◇約束を守り、友達と仲よく練習をしようとしている。【関心・意欲・態度②】 ◇器具の安全に気を付けて準備や片付けをしようとしている。【関心・意欲・態度④】 ◇技のポイントを知り、自分の力に合っためあてをもって取り組んでいる。【思考・判断②】	
	学習内容と活動	教師の指導と支援 (○)・評価 (◇)
な か ①	1 学習の場づくりをして、準備運動をする。 ○全体でストレッチをする。  ○つながる運動を行う。 ・うさぎ跳び ・かえるの逆立ち ・馬跳び ・踏み越し跳び→着地 ・踏み切り→腰上げ→跳び乗り→着地	○手首、足首、首などよく使う部分を中心に、伸ばしているところを意識しながら行うように声をかける。 ○うさぎ跳び、かえるの逆立ちについては腕支持の意識を高めるように指導する。 ○着地でピタッととまることができるように声をかける。
	2 学習のめあてを確認する。  ① めあて① 今できる技を安定させたり、大きくダイナミックにしたりして跳び箱運動を楽しもう。	
	3 場所別のグループにわかれて、自分のめあての技に取り組む。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     時間配分の例                      A 児・・・めあて① 10分 めあて② 20分                      B 児・・・めあて① 15分 めあて② 15分                      C 児・・・めあて① 20分 めあて② 10分                      &lt;適宜ペアにできばえを確認してもらおう。&gt;                      ※ペアは授業中「相棒」と呼ぶことにする。                 </div>	○しっかりとした踏み切りや着手などができるように教師が示範して見せる。 ○上手にできている子どもを称賛し、技のポイントを確認することで、学級全体が理解できるようにする。上手にできている子どもの動きを見せながら、よい動きのイメージをしっかりとらせる。 ○技のポイントについて考えていけるよう技の流れを掲示した資料や友達の動きを見るように指導する。また「着手」「第1空間」など見合う視点を伝えて、教え合いができるようにする。

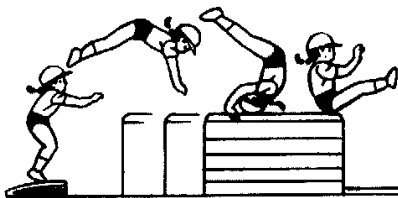
＜めあての例＞

- ・開脚跳びで、第1空間を大きくして空中で水平になれるようしっかり腰を上げて跳べるようにしたい。
- ・第2空間を大きくして跳べるようにする。着地でふらつかないように、膝をつかって「ピタッ」ととまるようにしたい。
- ・台上前転で、技をダイナミックにしたい。着手で体をしっかり支え、膝を伸ばして大きく回るようにしたい。



＜開脚跳び＞

跳び箱の上で水平に！  
脚を閉じて着手する。脚を開くのを遅くするといいよ！



＜台上前転＞ピーン キュ！  
膝を伸ばそう！！

な 4 学習の場づくりをする。

か 5 学習のめあてを確認する。

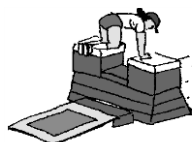
②

めあて② もう少しでできそうな新しい技に挑戦して跳び箱運動を楽しもう

6 めあて別のグループにわかれて、自分のめあての技に取り組む。

＜めあての例＞

- ・開脚跳びの縦ができるようになりたい。連結跳び箱の場で練習し、しっかり突き放して跳び越せるようにしていく。
- ・かかえ込み跳びができるようになりたい。そのために、中抜き跳び箱で練習して、足を閉じて跳ぶ感覚を身に付けたい。



○友達と技のポイントを教え合いながら練習するよう声をかける。見合う視点を確認する。

○開脚跳びでは、踏み切りの際には「バン」着地をする際に「ピタッ」など教師から合わせて声をかけるようにする。また、第1空間の大きさについても水平になるように意識させる。その際、できているかどうか、友達同士で見合うように促す。第2空間については、着地位置のめやすとなるテープをマットに貼るなどして、できばえをわかりやすくする。

○台上前転では、膝が伸びているかどうかを意識させる。「ピーン」などのオノマトペを活用したり、友達同士で見合うようにしたりするように促す。  
○めあて②にいく前に必要に応じてペアに見てもらうように声をかける。

◇跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。

【関心・意欲・態度①】

◇約束を守り、友達と仲よく練習をしようとしている。

【関心・意欲・態度②】

◇友達と協力し、自分の役割をしっかり果たそうとしている。

【関心・意欲・態度③】

◇自分や友達の課題を知り、それに合った練習をしたり、教え合いをしたりしている。

【思考・判断①】

◇技のポイントを知り、自分の力に合っためあてをもって取り組んでいる。

【思考・判断②】

◇技を安定させたり、大きくしたりできる。

【技能①】

○安全に協力して器具を運ぶように声をかける。すばやく取り組んでいる子どもを称賛する。

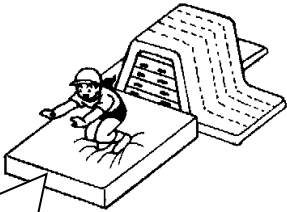
○掲示資料を見ながら、同じ時間配分の友達と協力しながら場作りをするように声をかける。

○めあて②にいくときに、紅白帽を白から赤に変えるよう声をかける。

○跳び箱の段を少しずつ減らしていき、連結させないでも跳べるようにしていく。試しの場へつないでいけるよう声をかける。

○踏み切りの弱い子には、上手な子の踏み切りの音を聞かせる。

○踏み切り後の腰の高さや着手の位置など意識させる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台上前転ができるようになりたい。高くなったところで前転ができないので、水深調節台や、やわらかい直方体のマットの場を使って練習する。台の上でしっかり前転ができるように練習したい。</li> <li>・ 首はね跳びができるようになりたい。あおってはねることができないので、ステージからセーフティマットに跳び降りる場で練習をしたい。慣れたらマットを跳び箱にまいた場で取り組んでみる。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>セーフティマットがあると安心！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頭はね跳びができるようになりたい。跳び箱を突き放してはねることができないので、つなげた跳び箱を活用した場で練習をする。</li> </ul> <p>7 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習計画表に今日の振り返りを記入する。</li> <li>○友達や自分のよかったところ、がんばったところを伝え合う。</li> <li>○学級全体に紹介する。</li> </ul> <p>8 整理運動を行う。</p> <p>9 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○やさしい場でできた子には、普通の場でも試してみるよう助言する。</li> <li>○着手をした後に、体重をしっかり手で受け止めて腰を上げて回ることが大切であることを伝える。頭を中に入れ、台の手前から回っていくことを意識するように助言する。紅白帽については必要に応じてはらずしてよいことを伝える。</li> <li>○安全面に配慮し、セーフティマットとマットの間にすき間ができないように設置する。また最初は教師が必ずつき、背中を押し上げるなどの補助をする。また、子どもにも補助の仕方を指導し、お互いに協力し合うことができるようにしていく。</li> </ul> <p>◇跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度①】</p> <p>◇約束を守り、友達と仲よく練習をしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度②】</p> <p>◇友達と協力し、自分の役割をしっかり果たそうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度③】</p> <p>◇自分や友達の課題を知り、それに合った練習をしたり、教え合いをしたりしている。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断①】</p> <p>◇技のポイントを知り、自分の力に合っためあてをもって取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断②】</p> <p>◇やさしい場や条件のもとで新しい技ができる。</p> <p style="text-align: right;">【技能②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動きや友達のよさ、上達した点等、具体的に書けるように指導する。また、計画を修正する必要がある場合は赤で修正していくよう伝える。</li> <li>○手本となる教え合いをしていた子どもを中心に称賛したり、紹介したりする。</li> <li>○できばえや充実度により、紅白帽を白にして集合する。</li> <li>○ストレッチを中心に行うように声をかける。</li> <li>○みんなで協力して取り組むように確認をする。</li> <li>◇器具の安全に気を付けて準備や片付けをしようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度④】</p>
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場や器具の安全に気を付け、自分の役割をしっかり果たし、進んで跳び箱運動に取り組むことができたか。</li> <li>○自分の力に合っためあてをもち、課題に応じて必要な練習をしたり、教え合いをしたりすることができたか。</li> <li>○できる技を安定させたり、大きくしたりダイナミックにしたりすることができたか。</li> <li>○もう少しでできそうな技をやさしい場や試しの場でできるようにすることができたか。</li> </ul>	